

真心ある政治「こころのよりどころ通信」

大野市議会議員 林よりかず活動報告



大野市議会議員の林順和です。政治は常に国民、市民のものでなければなりません。私は日ごろから現場を大切に、話を聞いて「誇れるまち大野」実現のため、市民・事業者と行政との橋渡しを心掛けています。

3月議会で認めた予算が市民や市内事業者のため、速やかに適切に執行されているか。また、4月から結ステーション駐車場が有料化され、7月からは公共施設の使用料が改定されることから、その影響を注視してまいります。

引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

林 順和 Hayashi Yorikazu 昭和52年(1977)生まれ 47歳

中央大学卒、大野市議会議員2期目

「障害者手帳等所持者」の入浴料300円⇒500円に

⇒(市長)多くの市民に利用いただいていることから急激な使用料の上昇を抑えるため、市民の使用料を700円とした。高齢者は100円割り引き600円に、障害者手帳等をお持ちの方は、近隣市町の温浴施設や公衆浴場の入浴料金490円を参考に200円割り引き、500円とした。使用料の改定により利用者が減少しないよう、環境を整えていく。

令和7年3月議会の初日、市長は「物価や光熱水費の高騰、労務単価の上昇により、公共施設の維持管理経費の増加が見込まれる中…(中略)、受益者負担の適正化を目的に使用料・手数料にかかる受益者負担の算定基準を策定しました」と所信表明。算定基準に基づき36施設の使用料改定や各種手数料の見直しが提案されました。

見直しの必要性は理解するものの、算定基準には激変緩和措置(現行額の1.3倍を改定上限)が規定されており、市内温泉、温浴施設の入浴料金に関して「障害者手帳等所持者」(介助者1名も同額)の値上げは、その上限を超えるものでした。市議会では地域福祉の推進に向けて外出抑制とならないよう、丁寧な対応を求めました。

◇あっ宝んど、うらら館、平成の湯個人1回利用
(令和7年7月1日～ 単位：円)※3歳以上半額

大人	中学生以上	600	⇒	700
	中学生以上の身体障害者手帳等所持者	300		500
	65歳以上の大野市民	500		600

<https://hayashi-yorikazu.jp/>

「こころのよりどころ通信」バックナンバーや最新の市政情報は、右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。



いのち 生命の道・早期開通へ要望活発に

- ・昨年、工事課題が発生した中部縦貫自動車道は直径1.2メートル、長さ46メートルの鋼管30本を地中に打設するなどの対策が示されました。工期が延長となったため、県内全線開通は令和11年春を目指すとの報告がありました。
- ・3月に大規模な斜面崩壊があり通行止めとなっている国道158号大野市朝日～岐阜県境は、仮橋を設置してう回路を整備する方針が示され、夏休み前までの開通を目指すとの報告がありました。また、年度内の完成を目指していた福井市アンデパンダン広場横のう回路は、繰越工事となり、夏ごろにう回路が解消される予定です。

立春過ぎての大雪記録2025

2月3日の立春を過ぎて大雪となった令和7年。市民が助け合って乗り越えた2025年冬の記録をまとめました。

⇒2月12日午前7時20分ごろ撮影(氷点下9.4℃)
荒島岳山頂から朝日が昇る「#ダイヤモンド荒島」



2月7日 国道158号



2月23日 JR有明町踏切
※越前大野駅～九頭竜湖駅間で計画運休が長期化



2月12日 市道こぶし通り

福井県大野市友江観測所
積雪情報(午前6時現在)

2月 3日	31センチ
2月 4日	44センチ
2月 5日	78センチ
2月 6日	88センチ
2月 7日	105センチ
2月 8日	121センチ
2月 9日	122センチ
2月10日	123センチ
2月11日	116センチ
2月12日	102センチ
2月13日	89センチ
2月14日	82センチ
2月15日	76センチ
2月16日	71センチ
2月17日	63センチ
2月18日	67センチ
2月19日	78センチ
2月20日	86センチ
2月21日	79センチ
2月22日	79センチ
2月23日	100センチ
2月24日	98センチ
2月25日	88センチ
2月26日	77センチ
2月27日	75センチ
2月28日	69センチ

編集後記

本年1月1日現在の公示地価が公表され、県内各地で下げ止まりや上昇がみられる中、大野市は住宅地、商業地ともマイナスが続いています。令和6年1年間の人口推移では626人の減少となりました。ちなみに大野市で生まれたこどもの数は116人。人口減少、地価下落が続く中、市債(借金)残高を増やす財政運営を行うのであれば、その金額以上に市税収入が増えるよう経済を強くしていかなければならないと感じています。具体的な数値を皆さんと共有しながら議論を深めていきたいと思っています。

発行元 林よりかず後援会事務所 【電話・FAX】0779-65-0276 大野市春日二丁目5-13



こころのよりどころ通信

大野市議会・本会議の様子(ライブ中継)や議事録は大野市ホームページ「大野市議会」のページで確認することができます。右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。ぜひ、ご確認ください。



本市の財政状況と行政組織の目指す姿とは

返済額を超える借金は将来世代への負担増となるが

⇒(市長)令和6年度の一般会計における市債の借入予定額は、3月補正予算案を含めて34億2,540万円。元金償還額は、令和10年度に償還のピークを迎え、約14億5,000万円を見込む。交付税措置のある有利な市債を活用してきていることから、健全財政は保てるものと考えている。

林の視点

昨年示した中期財政見通し(案)の中で市は、令和5年度末時点の一般会計の市債(借金)残高は122億1,500万円、基金(貯金)残高は69億9,700万円と公表しています。

市債の借り入れ期間延長や財政調整基金の取り崩しで財源不足を調整していますが、長期金利上昇の影響があること、若者定住に向けた経済循環を重点に予算全体の見直しを求めています。

中途退職者が増加傾向だが、職員のエンゲージメント(※)は

⇒(市長)新たな大野市人材育成・確保基本方針を策定した。組織が抱える課題を洗い出し、人材の定着や組織力の向上につなげる。職員には、大野市役所は大野市を好きな人が、大野市をより良くするために働くことができる職場であることを伝え、職員同士がチームワークで行動し、前向きに楽しみながら業務に取り組むことができるよう職場環境の整備を進めている。

(※)貢献する気持ち、愛着のこと

正職員が減少する中、グループ制や組織体制の見直しは

⇒(市長)グループ制は職員それぞれが職責を果たし業務を進める体制を令和8年度の実施を目指して検討していく。組織機構については、社会情勢の変化や複雑化・多様化する行政課題などに的確に対応するため、適宜、見直しを行う。

林の視点

限られた財源の使い道や自主財源の増加策、若手の確保や幹部職員の育成など、いざというときに役立つ行政組織づくりに向けて、ガバナンスと財政基盤の強化を求めています。

市役所内部の「働き方改革」「職場環境の改善」は我々議会も見えにくいもの。星空に配慮してライトダウンデーを設定して市民に呼びかける中、市役所自らの実践はどうか。行財政改革も含めた「見える化」を求めています。



18年をつなぐ教育、こども支援の充実とは

昨年4月に再編した中学校、生徒への影響は

⇒(教育長)再編後、生徒自らが校則を見直したり、学校祭などの学校行事の企画運営に積極的にに関わり、意欲的に学校生活を送っている。学力については、県の学力調査で、概ね県平均と同等という結果になった。

部活動は全体の78%の生徒が学校の部活動に加入、地域クラブのみに加入している生徒を加えると90%の生徒が放課後のスポーツや文化活動に取り組んでいる。

○中学校部活動の現状

生徒が放課後や休日の過ごし方を選択できるよう、市教委では令和5年度より任意加入制を導入。さらに休日は部活動は行わず、地域クラブでの活動に移行を進めています。

来年4月再編予定の小学校、特に配慮する点は

⇒(教育長)中学校再編と同様、児童や保護者の負担を軽減するため、学用品購入支援を行う。特にスクールバスの運行では、中学生より乗車時間を短くするなど、児童の体力を考慮したルートづくりに努めるほか、放課後のこどもの居場所についても配慮している。小山小学校区や阪谷小学校区の放課後こども教室は継続する。

その他、新年度から校舎改修工事に着手する有終南小学校と富田小学校の空きスペースを活用し、安全で安心な放課後のこどもの居場所づくりにも取り組む。

○校区・通学路の変更

有終東小学校区で開成中学校に通う弥生町などの校区を見直し、有終南小学校へ通学する方針です。当該地区の区長などと情報を共有して、見守り活動の協力をお願いしていくとしています。

OSORAの「寒さ対策」やベンチの充実を

⇒(教育長)屋内型こどもの遊び場おおの天空パーク OSORAはこどもたちに思いっきり身体を使って遊んでもらうことを最優先し、タワー遊具やネットフロアなどを広い空間に設置したことで、一部の保護者から寒さに関するご意見をいただいている。授乳やおむつ交換を行うベビールームには空調設備を追加するとともに、休憩スペースにはホットカーペットを設置するなど改善を図る。

親子で休憩や飲食ができるスペースに、市産のスギ材で製作したテーブル19台を設置し、温かみのある空間を創出するとともに市産材の活用をPRしている。



市外利用者はこども500円、付添いは300円(市民はともに無料)です。冬季の利用が見込める中、底冷えする施設ではリピーター確保に懸念があることから、早急な改善と正しい情報発信を求めています。

